

令和7年度 第1回 中城御殿跡地整備検討委員会

なかぐしくどうん

令和7年度 中城御殿跡地整備検討委員会 概要

1. 中城御殿跡地整備検討委員会・部会について
2. 過年度までの検討経緯
3. 令和7年度検討スケジュール（予定）
4. 令和7年度の検討事項
5. 【参考】中城御殿跡地整備の概要①②
6. 【参考】管理運営体制について

1. 中城御殿跡地整備検討委員会・部会について

- 中城御殿跡地整備検討委員会は、首里城公園内施設のうち、中城御殿跡及び龍潭周辺の整備について検討を行う。

委員会検討範囲 (中城御殿跡及び龍潭周辺)

- 首里城公園(県営公園区域)
- 首里城公園(国営公園区域)

なかぐしくどうんあと 中城御殿跡 (整備予定)

- 琉球王国の世継ぎ(世子中城王子)の屋敷で、当初は首里高校敷地内にあった。当跡地では1874年3月に建物が竣工し、1875年に世子(尚典)が移住した。
- 1879年の琉球処分以降は尚泰王以下尚家一家が移住し、「尚侯爵首里邸」となる。
- 1945年、沖縄戦で多くの宝物とともに消失。



アメリカ軍撮影航空写真(中城御殿部分)
1945年4月撮影/アメリカ国立公文書館所蔵
(沖縄県公文書館複製所蔵)

まつぎさばあと 松崎馬場跡 (整備予定)

- 首里城から本島中北部に延びる街道「西海道」の一部。
- 冊封七宴のひとつ重陽の宴では、爬竜船競争の観覧席を設置したとされる。
- 龍潭及びその周辺は県指定史跡に指定されており、文化財的価値が高いエリア。

円覚寺(三門) (文化財・整備中)



1. 中城御殿跡地整備検討委員会・部会について

- 令和7年度は主に、上之御殿エリア、御内原・表御殿西側エリアの整備状況、表御殿西側エリアの展示計画および外構設計などを検討する。また、関連する龍潭周辺整備の状況も引き続き確認する。
- 引き続き、中城御殿においては「中城御殿エリア検討部会」、龍潭周辺整備においては「龍潭周辺整備検討部会」にて検討を行い、検討結果は委員会に諮る。
- また、中城御殿整備後の運営状況等を確認する「施設管理運営委員会」の構成検討を行う。

検討委員会（2回予定）

【委員】	歴史	田名 真之	前沖縄県立博物館・美術館 館長
	歴史	高良 倉吉	琉球大学 名誉教授
	都市計画	池田 孝之	琉球大学 名誉教授
	考古、漆芸史	安里 進	沖縄県立芸術大学 名誉教授
	景観、建築	山城 一美	(公社)沖縄県建築士会副会長
	保存科学	早川 泰弘	東京文化財研究所 特任研究員
	地域、建築	伊良波 朝義	NPO法人首里まちづくり研究会理事長 (公社)日本建築家協会沖縄支部相談役
	工芸（染織）	與那嶺 一子	琉球大学 非常勤講師

【協力委員】	沖縄局	柳原 季明	開発建設部 公園・まちづくり調整官 首里城復元整備推進室長
	沖縄県	奥間 正博	土木建築部 参事
		仲本 隆	土木建築部 南部土木事務所長
		喜納 久	土木建築部 都市公園課長
		米須 薫子	教育庁 文化財課長
		親富祖 ちか	文化観光スポーツ部 文化振興課 県立博物館・美術館 副館長
	那覇市	前原 信博	都市みらい部 参事兼都市計画課長
		仲村 仁	市民文化部 文化財課長
	指定管理者	福地 敬	(一財)沖縄美ら島財団 事務局長

中城御殿エリア検討部会

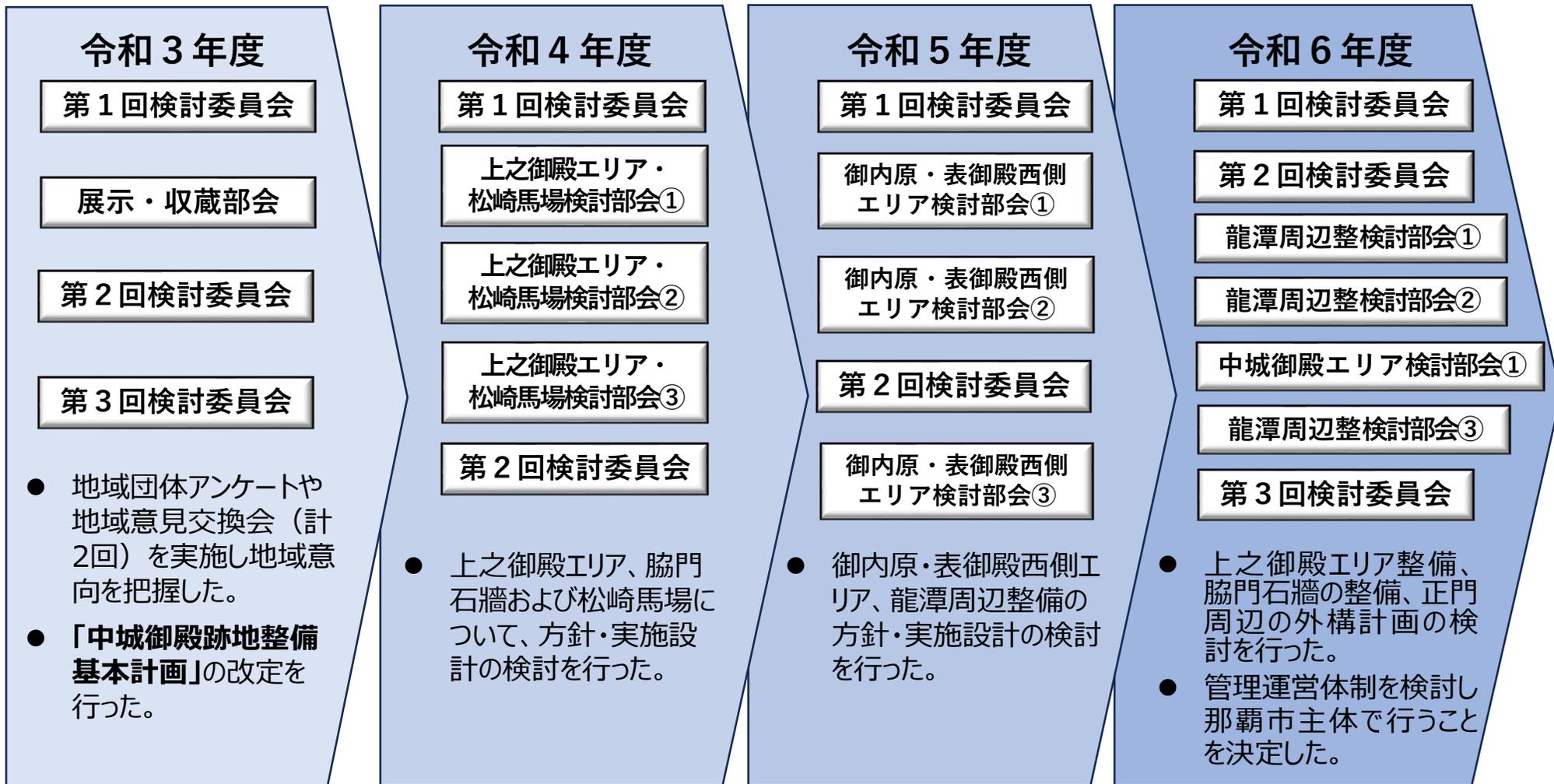
- 中城御殿エリアのうち、表御殿西側エリアの展示計画、外構設計等に関する詳細・具体的な内容を議論する。
- 施設管理運営委員会の構成等について検討する。

龍潭周辺整備検討部会

- 龍潭周辺整備のうち、主に世持橋勾欄の工事および松崎馬場整備に関する内容を議論する。

R6年度の部会と同メンバーおよび関係部局を含めて構成する。

2. 過年度までの検討経緯



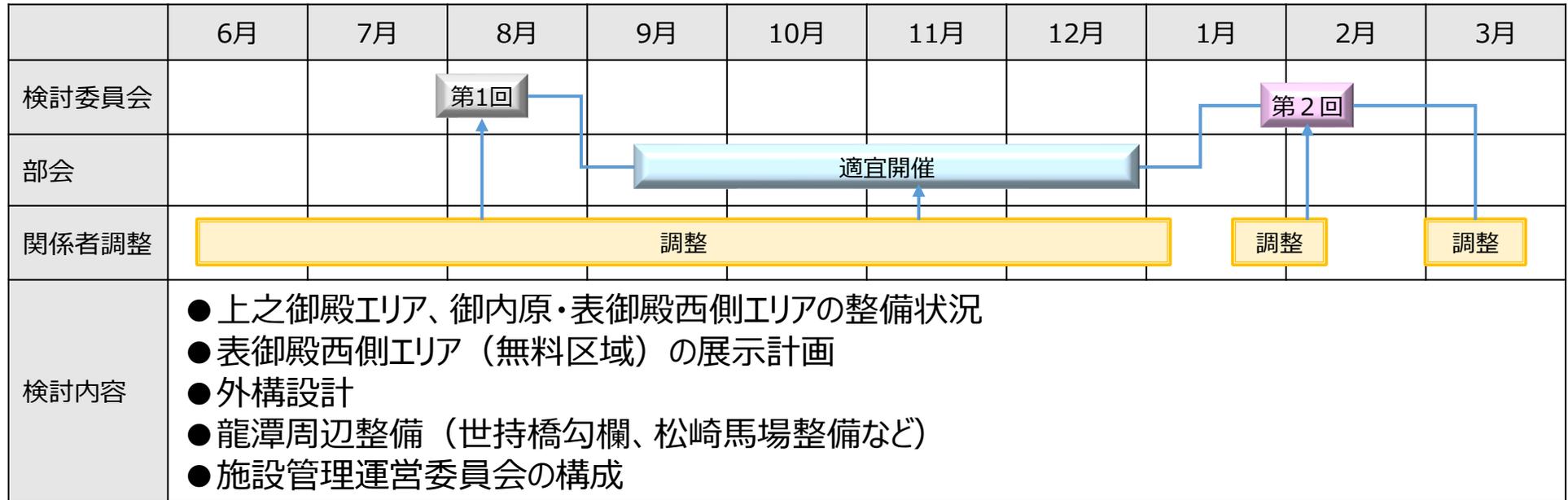
工事着手後、当該エリアから想定よりも高い位置で新たな遺構が出現したため、工事を一時中断し設計変更を行っているところである。

上之御殿エリア・脇門石牆の工事着手

御内原エリア・表御殿西側エリアの工事着手

3.令和7年度検討スケジュール（予定）

※進捗に応じて変更になる可能性がある



月	会議	議論テーマ（案）
R7.8月13日	第1回検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> • 中城御殿正門からのアプローチについて • 首里城公園エリアの史跡・名勝について • 上之御殿エリアの整備について
R7.9月～ R7.12月頃	検討部会	<ul style="list-style-type: none"> • 検討部会にて各種課題を検討
R8.1～2月	第2回検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> • 成果の確認、今後の課題等について確認

4.令和7年度の検討事項

中城御殿の平面計画 (R7.7時点)

地盤高さ変更による消火ポンプ室及び北側擁壁整備の検討

【上之御殿】
北側及び東側擁壁の検討

【上之御殿】
上之御殿のスロープ検討

【表御殿西側エリア】
表御殿西側エリアの展示
内容の検討

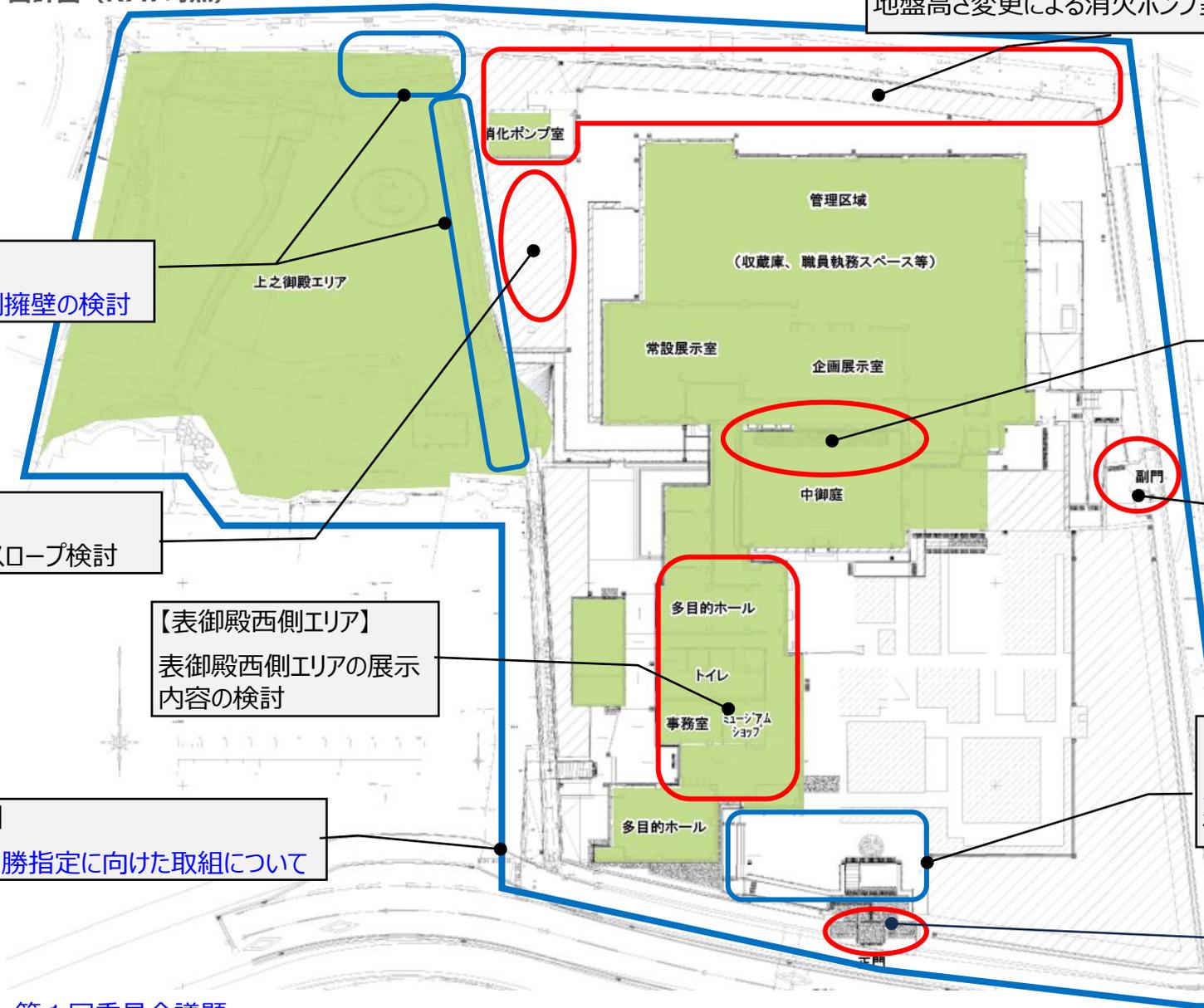
【敷地全体】
史跡及び名勝指定に向けた取組について

【建物廻り】
外装仕上げの検討
設備等の見え方の確認
赤瓦の施工方法検討

副門の検討

【正門周り】
正門からのアプローチ検討
植栽樹種検討

正門の検討



4.令和7年度の検討事項

- 中城御殿跡地整備検討委員会では、令和3年度の基本計画の改定以降、各エリアの設計内容の検討、工事の進捗に応じた課題についての詳細検討を行ってきた。令和6年度までの検討を踏まえ、今後の確認・検討事項は以下のとおりである。

【建築関連】

検討項目		整備方針と検討経緯・結果 [年度・会議数]	今後の確認・検討事項	検討目途
表御殿西側エリア・御内原エリア	設計方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 表御殿西側・御内原エリアは、中城御殿の体験学習施設として、外観再現を行う。特に御内原エリアは、貴重な資料を展示・収蔵する施設として、温湿度管理や虫菌害対策、防災・防火対策を講ずる。【R5実施設計】 ● 外構・遺構レベルを基準とした建物高さとする。特に御内原エリアは、遺構保護に加え、適切な展示・収蔵環境を確保するため、往時の高さよりも高くなる。【R6①】 ● 屋根の重なり的美しさが中城御殿の特徴であることから航空写真に即した屋根形状の再現を優先し、陸屋根軒先通しを採用。北側住宅地への圧迫感の低減に配慮し高屋根とする。屋根構造はコンクリート庇とする。【R5②】 ● 御内原エリアは防火区画や特定防火設備を設け、展示室・収蔵庫は不活性ガス消火設備を導入。【R5②】 	<ul style="list-style-type: none"> ● 中城御殿の地盤高さ変更による建物計画の変更を報告（本会議） ● 消火ポンプ室の形状変更 ● その他、工事の進捗に応じた検討の実施 ● 設備等の意匠上の配慮について確認 	R7年度 検討部会
	詳細設計	<ul style="list-style-type: none"> ● 建物外装材は、景観性と防火対策のバランスを踏まえ、天然木（ヒノキ材）を使用。【R5②】 ● 中御庭はサンゴ砂利とするが、車いす利用者のため、中門前の見学範囲は舗装仕上げとする。【R6①】 ● 大御殿の外観は往時の雰囲気再現するため、御簾（みす）や木製建具を配置する。障子部は乳白色すりガラスで検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 外装材については、モックアップをもとに詳細（仕上げ・御簾、障子の雰囲気再現）を検討 	R7年度 検討部会
	北側擁壁	—	<ul style="list-style-type: none"> ● 消火ポンプ室及び北側擁壁の遺構を踏まえ、建物北側の外構を検討 	R7年度 検討部会

4.令和7年度の検討事項

【外構関連】

検討項目		整備方針と検討経緯・結果 [年度・会議数]	今後の確認・検討事項	検討目途
上之御殿エリア	擁壁石積	<ul style="list-style-type: none"> ● 上之御殿エリアは、遺構を積極的に活用する方針で決定。御嶽、庭園、展望台、広場を設ける。[R4 実施設計] ● 西側擁壁は往時の積み方（多角形で丸みのある扇形）を参考とし、要所に細長い形状を配置する。[R6③] ● 北側擁壁は北側階段周りは往時と景観が異なるため、現代積みと分かる積み方（正方形）で施工する。[R6③] ● 東側擁壁は遺構の状態が良いため、遺構を活かした擁壁とする。[R6③] ● 西側広場の転落防止については、過年度に決定した門扉と同様、転落防止柵も溶融亜鉛メッキ仕上げとする。[R6③] 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新たに確認された擁壁石積の整備方法について、今後の検討内容を報告 	R7年度 検討部会
	上之御殿の スロープ	<ul style="list-style-type: none"> ● 上之御殿へのスロープは、景観面や遺構との関係から必要なスロープの面積が確保できないことから、令和3年度時点では整備しない方針だった。地域住民のニーズが高いことを受け、令和6年度に再検証を行い、スロープ案を検討中 [R6③] 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新たな遺構を確認したこと等を踏まえ、スロープの整備方針を再度検討 	R7年度 検討部会
脇門	脇門石牆 工事	<ul style="list-style-type: none"> ● 現存する石牆は、往時の姿を残すものであるため、文化財相当の整備を行う。 ● 後世に積み直しされた箇所についても、相方積みで積み直す。[R6②] ● 土のう箇所の石積みは、風化した石積が一部残るのみだったため、新材を使用して修復する。[R6③] ● 脇門内側で石積遺構を確認し、記録をとることで対応する。なお、石牆下部に設置する管防護工は、遺構に影響がない範囲で、遺構の上部から石牆内部を貫通させる。[R6③] 	<ul style="list-style-type: none"> ● 石牆工事の内容を報告 	—
正門	正門及び 正門周辺	<ul style="list-style-type: none"> ● 敷地内部の地盤が高くなり、正門前に段差が生じることから、景観の確保やバリアフリーに配慮した外構計画（スロープ等）を検討。西側エントランス前の広場空間や階段形状の異なるスロープ案を検討中。[R6③] ● 正門側井戸は、整備遺構の位置に近いA案(正門の外側)に決定。[R6①] 	<ul style="list-style-type: none"> ● 正門周辺の外構計画を検討 	R7年度 第1回 委員会
			<ul style="list-style-type: none"> ● 正門の詳細設計を検討 	R7年度中
副門	副門及び 副門周辺	<ul style="list-style-type: none"> ● 副門廻りは外構の高低差が大きく、往時の雰囲気再現は極めて困難であることから、災害時の避難バリアフリーを優先してスロープを配置する。[R6①] 	<ul style="list-style-type: none"> ● 副門の詳細設計を検討 	R7年度中

4.令和7年度の検討事項

【展示・管理運営】

検討項目		整備方針と検討経緯・結果 [年度・会議数]	今後の確認・検討事項	検討目途
展示計画について	展示方針	<ul style="list-style-type: none"> ●「琉球王国の栄華を巡る—王朝文化の拠点・「都市」の歴史—」に決定。御内原エリアは「王都・首里」と「港町・那覇を両輪に、躍動する都市・華開く王国文化」とし、展示資料を中心に多様な物語を発信。表御殿西側エリアは、「中城御殿と王都・首里のまちなみ」とし、中城御殿の歴史的背景や王都・首里のまちなみをガイドする。[R6③] 	—	—
	表御殿西側エリア	<ul style="list-style-type: none"> ●ビジターホールは施設のインフォメーション、体験交流ホールでは中城御殿に係るガイド展示、多目的ホールは講座や体験学習を行う。[R6③] 	<ul style="list-style-type: none"> ●表御殿西側エリアのガイド展示等の検討 	R7年度中
	御内原エリア【那覇市】	<ul style="list-style-type: none"> ●那覇市の展示計画を確認。[R6③] ●展示室は常設展示室、企画展示室1、2とする。[R6③] 	<ul style="list-style-type: none"> ●供用開始に向けた今後のスケジュールを確認 	R7年度中
	首里城城郭内との連携	<ul style="list-style-type: none"> ●城郭内は復元空間を主とする展示とし、中城御殿は展示資料を中心とした展示とすること役割分担を確認。[R6③] 	<ul style="list-style-type: none"> ●国の黄金御殿等の展示施設の検討の段階にて、連携や役割分担を検討 	—
	管理体制について	<ul style="list-style-type: none"> ●那覇市が主体となって施設の管理・運営を行い、展示・収蔵部門を一元管理することに決定。沖縄県、那覇市、沖縄美ら島財団にて覚書を締結。[R6②] 	<ul style="list-style-type: none"> ●中城御殿管理運営体制委員会の設置時期、協議内容について今後、確認。 	R7年度～ R8年度

5.【参考】中城御殿跡地整備の概要①

令和6年度第3回中城御殿跡地整備検討委員会資料再掲

- 中城御殿は、首里城公園の体験学習施設として、歴史文化の継承に寄与することを目的に整備。

■施設コンセプトと展示テーマ（令和6年度更新）

施設 コンセプト

琉球王家の屋敷と生活－王国末期から近代における琉球建築と王朝文化の継承－
（首里の歴史・文化、首里城及び周辺の文化遺産、風格ある歴史的まちなみの再生）
復元整備の時代設定：1874（明治7）年～1945（昭和20）年

展示テーマ

琉球王国の栄華を巡る－王朝文化の拠点・「都市」の歴史－

※復元年代にこだわらず、琉球王国時代等を含めた情報を広く発信

表御殿東側エリア／上之御殿エリア

表御殿西側エリア／御内原エリア

【復元展示】

琉球王家の屋敷と庭園
首里城への眺望景観

1874(明治7)年～1945(昭和20)年

中城御殿の往時の建物や庭園・眺望
そのものを鑑賞

- 建物・庭園・眺望景
- 調度品などのレプリカ展示
- パネル・映像などの展示
- 最新技術を含めた空間演出

※下線部は将来増築部分（表御殿東側エ
リア）で検討

御内原エリア

【常設展示・企画展示】

「王都・首里」と「港町・那覇」を両輪に、
躍動する都市・華開く王国文化

展示資料を中心に、多様な物語を発信
（中城御殿や王家の歴史の詳細も含む）

- 国宝・琉球国王尚家関係資料
- 城郭内で展示していた美術工芸品
- 王族・士族等に関する資料
- 王朝文化の背景を物語る関連資料
- 企画展による他館からの借用

表御殿西側エリア

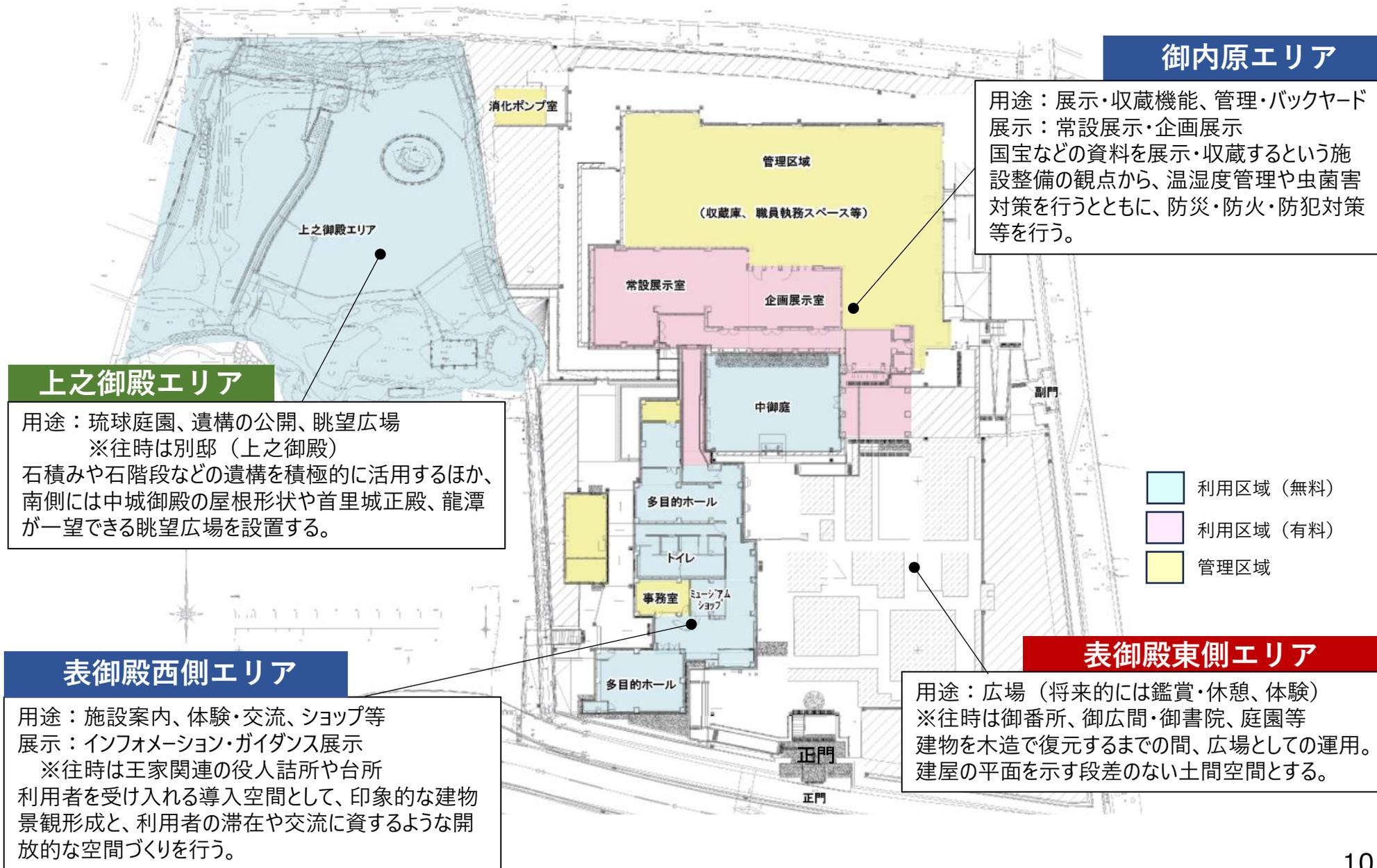
【インフォメーション・ガイドンス】
中城御殿と王都・首里のまちなみ

中城御殿の歴史的背景や王都・首
里のまちなみをガイドンス

- 中城御殿の施設概要（歴史的
背景、空間構成、復元整備の経
緯等）
- 首里城公園の案内
- 首里地域の案内・誘導
- 体験・交流、教育普及

5.【参考】中城御殿跡地整備の概要②

中城御殿の平面計画（R7.7時点）



5. 【参考】管理運営体制について

- 令和6年11月2日、沖縄県、那覇市、沖縄美ら島財団の三者で役割分担にかかる「覚書」を締結。「覚書」を踏まえて、各主体間の協定等を締結する。
- 沖縄県が施設管理運営委員会を設置し、関係者間で管理運営の方向性を確認できる体制とする。

中城御殿における役割分担

